

場所情報とオノマトペを利用した絵本推薦システム「てくととペ」

廣田美香

幼稚園教育要領、保育所保育指針によると、幼児期の絵本の関わりが言語能力や表現力に影響を与えることから、絵本と関わる経験が重要であるとされている。しかし、国内だけでも年間1,000冊以上の絵本が出版されており、その中から絵本を選択する保護者の負担は大きい。このような状況から、絵本を選ぶための支援としていくつかの絵本推薦システムが提案されているが、親主体で利用するものが主流であり、子ども自身が積極的に絵本と関わる経験を提供するという点では、不十分である。

そこで本研究では、保護者の絵本選択の負担を軽減するとともに、子ども自身が興味を持つ絵本に出会うことができる絵本推薦システム「てくととペ」を開発する。このシステムでは、子ども自身が積極的に絵本と関わる経験を提供する。「てくととペ」では、場所情報とオノマトペを使用する。場所情報として親子がいる場所を利用することで、その場所に応じた絵本を推薦することを可能にすることによって、幼児がそこで経験した興味関心から絵本へ導くとともに、外出先の間隙時間で絵本を選ぶことができ保護者の負担も軽減できる。さらに、オノマトペを発するキャラクターを利用することで子どもの興味を引き出す「てくととペ」はタブレット上で動作し、場所情報から、その場所にあった背景とキャラクターを画面に反映する。この画面で、子どもが実際に見たものや聞いたものをもとに、キャラクターを選択すると、オノマトペが画面に現れる。絵本の推薦は、このオノマトペによって行われる。

本システムの効果を検証するため、4歳から7歳の子どもとその保護者、11組を対象に調査を行った。調査では、およそ30分間自由にシステムを使用してもらった後、保護者と子どもそれぞれに感想を聞くアンケートを行った。調査の結果、11人中9人(81.8%)の保護者がシステムを利用することにより、絵本選択の負担が「大いに軽減する」「軽減する」と回答した。また、子どもの様子については全ての保護者が「とても楽しそうに利用していた」「楽しそうに利用していた」と回答し、子ども自身も全員が「楽しかった」と回答した。さらに、システムの推薦によって、今まで知らなかった絵本で、かつ、興味を持つ絵本に出会うことができたことがわかった。

本研究では、場所情報とオノマトペを利用した絵本推薦システム「てくととペ」が保護者の負担軽減と子どもが楽しめ、興味を持つ絵本を推薦することを両立したシステムであることがわかった。今後の課題は、実際に色々な場所で利用してもらうことで、幼児の経験から絵本へ導く過程の可能性を探ること、推薦手法、インターフェイスの改良である。

(指導教員 松村敦)